

2021年 千葉大本番レベル模試 英語

解答・採点基準

全3問 80分 200点満点

I (75点)

解答

問1 オ

問2 イ

問3 this line of inquiry has been paid relatively little attention

問4 ウ

問5 原生生物をひとつひとつ切り開いて内容物を確認すること。

問6 ウ

問7 ウ

問8

さらに、たとえウイルスが原生生物の食べる物の中に含まれるとしても、ウイルスが原生生物にとり主たる栄養源であるのか、単に副次的な栄養源にすぎないのかは不明確にとどまる。

採点基準

問1 8点

問2 6点

問3 6点

問4 6点

問5 15点満点

- ① 第5段落第5文や第3段落第5文を根拠に、「原生生物をひとつひとつ切り開いて内容物を〔何を食べたのかを〕確認すること」「個々の原生生物の中身を調べること」などと回答できていれば15点加点。
- 「個々の（ひとつひとつの）」原生生物を調べることが問題となっているということを反映していない場合、加点を8点にとどめる。
 - 第3段落第5文にあるような切り開くという動作に言及がなく、内容物の組成を調べる、ということにのみ言及していても減点しない。
 - 中立的に内容物に言及することが望ましいが、「何を食べたのか」を確認するという点に着目していても減点しない。
 - 結局のところ達成されている内容を示すことにはなるので、末尾を「～を捉える実験」などとしても、減点しない。
 - 同様に、ほぼ同一の内容を指示することになるので、「原生生物」とするところを「細胞」としていても減点しない。
 - 「～できるようになったこと」などとしている場合、(accomplishの目的語に相当する内容の説明として不適切なので)3点減点。
 - この加点項目①に関して加点が行われている場合、第5段落第6文を根拠に、原生生物が何かを行っている「(まさにその)最中に」捉える、という要素を解答に含めている答案については5点減点。

問6 6点

問7 8点

問8 20点満点

And if viruses do appear on the protist menu, it remains unclear whether they're a main course or a paltry side dish

「さらに、たとえウィルスが原生生物の食べる物の中に含まれるとしても、ウィルスが原生生物にとり主たる栄養源であるのか、単に副次的な栄養源にすぎないのかは不明確にとどまる」

- * 末尾の句点の有無は点数に影響しない。
- * 下記の通り前半の条件節と後半の帰結節に分けて採点するが、この前半と後半に概ね分けられることを適切に把握していない訳文については0点とする。
- * 下記①、②それぞれの加点項目については、付記により減点項目を設けるが、0点未満の点数は与えない。

* 解釈の誤りや不適切な表現のうち、以下に特筆しないものについては、1箇所につき2点減点。

① And if viruses do appear on the protist menu を、「さらに、たとえウイルスが原生生物の食べる物の中に含まれるとしても」などと適切に訳出・説明できていれば12点加点。

- if を順接的な仮定条件を表す語として訳出している場合、加点を5点にとどめる。
- do appear という強意の表現については、if を逆接・譲歩を表すものと捉えて「たとえ～としても」などと訳すことで十分に訳文に反映されているものにとらえる。つまり殊更に訳出されていない場合でも減点しない。「たとえ現にウイルスが原生生物の食べる物の中に含まれるとしても」などのかたちで訳し含めている場合でも減点しない。
- the protist menu を、「原生生物が（栄養源として）食べるもの（全ての一覧表）」などのかたちで適切に説明できていない場合には、3点減点。

② it remains unclear whether they're a main course or a paltry side dish を「原生生物にとり主たる栄養源であるのか、単に [つまらぬ] 副次的な栄養源に過ぎないのかは不明確にとどまる」などと適切に訳出・説明できていれば8点加点。it remains [...] whether [...] という形式主語と真の主語の関係を把握できていないと思われる場合には、加点しない。

- main course を、「(原生生物にとっての) 主たる栄養源」「(原生生物が) 主に食べているもの」などのかたちで適切に説明できておらず、「主菜」などと書いている場合には3点減点。説明を試みてはいても、相対的な重要性を意味しない表現、たとえば「重要な(栄養源)」などの表現を用いている場合、2点減点。
- side dish を、「(原生生物にとっての) 副次的な [主要でない/重要さの点で劣る] 栄養源」などのかたちで適切に説明できておらず、「副菜」などとしか書かれていない場合には、3点減点。

Ⅱ (75点)

解答

問1 ① エ ② ウ

問2

労働者の大半は自分の生産性が同僚の平均を上回るものと誤認しており、それゆえ能力給を導入すると、必然的に多くの労働者の不満を増大させることになるため。

問3 ③ ウ ④ ク ⑤ イ ⑥ エ

問4 ⑦ ア ⑧ ア ⑨ イ ⑩ イ ⑪ ア

問5 a ク b サ c コ d エ e イ
f ウ g ソ h カ i ア j ケ

採点基準

問1 各4点 計8点

問2 15点満点

- ① 第7段落第2文（や第3段落後半，また第5段落第2文や第6段落全体の表現）をもとに，「労働者の大半が，自分の生産性が同僚（の平均）を（大きく）上回るものと誤認している」，「労働者の多くは自分の能力を過大評価し，同僚の大半より優れていると思込んでいる」などのかたちで内容を記述できていれば6点加点。この内容は事実とされているため，これを「～とすると」など書いている場合には，この加点項目について加点しない。
- 空所③を補充した第7段落第2文の内容は「誤って信じている」という内容だが，信念が誤っているということを示していない場合でも，多くの（あるいは大半の）労働者が「信じている」ところの内容が適切に記述されている場合，減点しない。なぜならこの場合，労働者の大半がこうした内容を信じているという事態そのものが，信念の誤りを（そうした信念が実態と一致しないということ）を証明することになるからである。
 - 同僚（他の従業員・労働者）やその平均との比較の観点を欠いて，自分の能力を過大評価している，という要素のみを提示している場合，加点を3点にとどめる。
- ② 第7段落第2文（や第3文）をもとに，①に説明された事態ゆえに，能力給〔業績を根拠とした給与査定〕（の制度）を導入すると，（必然的に）多くの労働者の不満を増大させることになる〔多くの労働者を憤慨せしめる／多くの労働者に不公平感を与えることになる〕（そしてそれが雇用主にとっての不利益になる）ということを経由として説明できていれば，9点加点。能力給〔業績を根拠とした給与査定〕では，労働者が納得するかたちで給与を差別化するのが困難である，という説明の仕方でも減点しない。
- 能力給を導入した場合に何らかの問題が生じうる，ということを経由として説明できていない場合，加点しない。
 - この程度の説明で十分とするが，自分の能力を平均より高いと過大に評価する労働者が多いということは，能力に基づいて給与を決定された場合に自らが不当に低く評価されていると考える者が相対的に多数となる，ということを経由して説明している場合にも減点しない。

問3 各3点 計12点

問4 各2点 計10点

問5 各3点 計30点

Ⅲ (50点)

解答例

(下線部は指定された語)

- 1 got the idea
- 2 that he suspected them
- 3 knew something about the ring
- 4 tell the king what you have learned
- 5 know the peasant's real name

採点基準

- * 指定された語を含めていない場合、及び設問で指定されている語数を守っていない場合、0点とする。
- * 具体的に許容される表現については、別紙の解説を参照。
- * 各設問の各加点項目に関して、付記により減点する際には0点未満の点数は与えない。
- * 特記しない限り、文法・語法に関するミスやスペルミスは1箇所につき3点減点。

1 10点満点

- ① the servants を主語とした動詞句を適切に構成し、直後に名詞節を伴いうるかたちで idea をという語を用いることができている場合、10点加点。
 - an idea も the idea もどちらも減点しない。
 - 同格の that の有無に応じた加点・減点は行わない。
 - この設問については、文法・語法に関するミスやスペルミスは1箇所につき5点減点。

2 10点満点

- ① 下線部において imagined に対応する名詞節ないしは直接目的語に相当する名詞句を文法的観点から適切に補っている場合、4点加点。この加点項目に関して加点が行われていない場合、下記の加点項目②は適用しない。
- ② 上記①の加点が行われているという前提のもと、家来たちが「想像した」内容に関し、ガンバラが家来たちを疑っている、という内容を適切に構成している場合、6点加点。
 - ガンバラが家来たちの行ったことを確実に知っている、というくらいの内容が明確に示されている場合には、この箇所の加点を3点にとどめる。
 - suspect を用いるべきところで doubt を用いている場合、4点減点。

3 10点満点

- ① suspect の語法を適切に把握し、下線部直前の the servants とあわせて、名詞節、目的語+of+名詞的要素[to不定詞/as]などを適切に構成している場合、4点加点。
- ② 嫌疑の内容については、「(家来たちが)指輪を盗んだ[隠した]」、「指輪について何かを知っている」、「指輪の所在を知っている」等の内容を適切に構成できていれば、6点加点。
 - 節や動名詞句によって嫌疑の内容を表現している場合、時制を正しく表現できていない場合は加点を2点にとどめる。

4 10点満点

- ① 全体として、「(あなたが)王に私たちのしたことを報告する」「(あなたが)私たちのしたことを明るみに出す」などの内容を適切に構成できている場合、10点加点。後続の主節が直説法現在なので、条件節に含まれるこの下線部で仮定法過去を用いている場合、加点を5点にとどめる。
 - you を主語とする動詞 (tell や reveal や expose 等) を用いることになるが、その動詞の語法に関して誤りが見られる場合、5点減点。
 - accuse を用いて accuse us of what we have done 等とすることは文法・語法上不可能ではないが、糾弾の根拠となる罪状として of 以下で糾弾される当の人間「がなしたこと」を漠然と提示するのは不可解である(つまり、具体的に何をしたのかを明確にすることが望ましい)点、最適とは言いがたいので、加点を8点に

とどめる。

5 10点満点

- ① 全体として、王が目の前の農夫の本当の (real) 名前を知らなかった、という内容を構成できるように、who didn't の後に置かれる文言を構成できている場合、10点加点。食材としての gamberi の「本当の名前」を問題にしている場合には加点しない。
- 誰の名前か、という点については、the peasant's real name ないし the peasant astrologer's real name とすることが望ましい。解説に示した理由から、Gàmbara's real name ないし the astrologer's name とすることには若干の恨みなしとは言えないが、解説に示した理由から、減点しない。
 - 関係詞節の意味上の主語は the king であるが、Gàmbara の名前が問題になっていることを説明するために his (real name) 等と書いていても特に減点しない。